

穂別町立博物館報

第 4 号

(昭和61年度)

穂 別 町 立 博 物 館

目 次

展 示 活 動	1
資料收集保存活動	2
調 查 研 究 活 動	4
普 及 教 育 活 動	5
運 營	6

● 展 示 活 動

I 特 別 展

■ 第3回特別展『穂別の自然』

第30回（穂別）町民文化祭の特別展示として開催。穂別町に棲息、植生する動植物の標本を中心に展示、ビデオコーナー、標本作製コーナー、野鳥スケッチコーナーなども設けた。

- 期 間：昭和61年10月21日～11月9日
- 入場者数：274名（観覧者名簿に記載した者）

- 展示内容：

1. 哺乳類（剥製） 8点
2. 哺乳類動物化石 3件6点
3. 鳥類化石（レプリカ） 1点
4. 鳥類（剥製） 1点
5. 植物化石（珪化木） 2点
6. 植物樹幹標本 66点
7. 説明パネル 22点
8. 写真パネル 22点

- ビデオコーナー

『砂金堀り』

『化石採集』 など

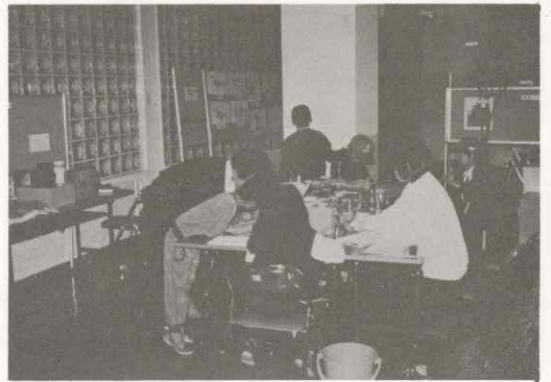
- 標本作製コーナー

樹皮標本の作り方（石膏模型）

- 野鳥スケッチコーナー

展示中の野鳥剥製を観察、スケッチをしてもらい作品を展示の上、優秀な作品については記念品を送った。

教育長賞 豊岡さおり
館長賞 渡辺 幸治
協力会会長賞 上村 篤史



● 資料収集保存活動

昭和61年4月1日から昭和62年3月31日までに
寄贈、移管、購入、採集された資料を順に記した。
(敬称略)

I 寄 贈

〔人文系資料〕	13件36点
レコードほか	(17点)相川 唯和
下駄ほか	(3点)河原 清
そり	(1点)小野寺正一
鞍	(1点)板垣勝次郎
レンズメーターほか	(2点)木村 利一
イタチ罨	(2点)浅野 勝司
体重計	(1点)町立病院
脱穀機ほか	(3点)丹羽 義男
投網	(1点)横山 武司
写真(知覧飛行場)	(1点)鳴海助太郎
写真(クビナガリュウ人絵)	(2点)穂別高校
写真(富内線穂別駅)	(1点)下田 豊
三平皿	(1点)菅原 康二
〔自然系資料〕	6件66点
ヒレンジャク	(2点)渋谷 直憲
ヤマシギ	(1点)河原 清
アオサギ	(1点)大塚徳三郎・沖原利治
野鳥写真	(25点)笠巻袈裟男
ゴジュウカラ	(1点)岩田 誠・角 祥
植物写真	(36点)笠巻袈裟男
〔自然史系資料〕	26件
アンモナイト化石	(1点)松岡 桂
マンモスの歯(レプリカ)	(1点)熊野 純男
脊椎動物化石入りノジュール	(1点)荒木新太郎
貝化石	(1点)小山田信作
長頸竜化石	(1点)千代川謙一
岩石標本(青函トンネル開通場所の岩石)	(1点)古屋敷進一
自然史系文献	(96点)仲谷 英夫
脊椎動物化石入りノジュール	(3点)藤田 欣亨
脊椎動物化石入りノジュール	(1点)荒木新太郎
厚真～穂別トンネル、ボーリング・コア	(1箱)笠巻袈裟男
球果(岩石標本)	(1点)笠巻袈裟男
炭化木入りノジュール	(1点)長岡 晴道

アンモナイトほか	(27点)笠巻袈裟男
アンモナイト	(2点)穂別町化石研究会
アンモナイト	(1点)池田 憲一
アンモナイト	(1点)三上 卓也
アンモナイト	(1点)下谷内 勇
化石入りノジュール	(4点)菅原 昭二
イノセラムス	(1点)藤田 明
カキ化石	(2点)西尾 安則
カキ化石	(1点)水野弘美・三上ハツエ
アンモナイト	(1点)吉本 修
アンモナイト	(1点)千代川謙一
脊椎動物化石入りノジュール	(1箱)荒木新太郎
三原山の熔岩	(1点)森 茂
蟹化石入りノジュール	(1点)千代川謙一

II 移 管

〔人文系資料〕	1件1点
北海道引揚者連合会穂別支部長之印	(1点)穂別町教委
〔自然系資料〕	1件2点
ヤマメ(液浸標本)	(1対)穂別町役場
〔自然史系資料〕	6件
デスモスチルス骨格	(1組)穂別町教委
岩石標本	(6点)穂別町教委
火山灰(有珠山、昭和52年)	(1袋)穂別町教委
鉱石標本	(12点)穂別町教委
植物化石	(18点)穂別町教委
アンモナイトほか	(53点)穂別町教委

III 購入・作製

〔自然系資料〕	2件4点
エゾタヌキほか	(3点)北海剝製社
エゾシカ(剝製)	(1点)宮田 作男
〔自然史系資料〕	1件1点
珪化木	(1点)小林 繁

IV 採 集

〔自然系資料〕	
8月22日 長和	エゾトガリネズミ

〔自然史系資料〕

- 8月26日 稲里 白亜系アンモナイト化石
9月21日 小平町達市 白亜系アンモナイト化石
11月3日 栄、穂別、稲里、長和
微化石用岩石資料
11月3日 穂別 新第三系脊椎動物化石



『砂金堀り』

● 調査研究活動

I 穂別町内地質調査

長和の漣痕付近や脊椎動物化石産地を中心にスポット調査を行っている。今後は調査地域範囲の広域化と系統化が必要である。

II 脊椎動物化石の研究

[デスモスチルス]

木村方一：北海道教育大学助教授に研究委託
公表論文：穂別町立博物館研究報告〔1〕、11-23。
穂別町立博物館研究報告〔2〕、51-62。

[ウミガメ]

平山 廉：京都大学大学院院生に研究委託
公表論文：穂別町立博物館研究報告〔1〕、17-30。
投稿準備中

[長頸竜]

仲谷英夫：香川大学助手に研究委託
公表論文：穂別町立博物館研究報告〔1〕、37-40。
穂別町立博物館研究報告〔2〕、43-49。
投稿準備中

[モササウルス]

鈴木 茂：穂別町立博物館前学芸員が研究継続
公表論文：穂別町立博物館研究報告〔2〕、31-42。
地団研専報〔30〕、45-66。
地徳 力：学芸員が別資料で研究開始
日本地質学会第94年学術大会（大阪）
で一部発表

[サメ]

久家直之：京都大学大学院院生に研究委託
公表論文：穂別町立博物館研究報告〔1〕、33-36。
投稿準備中

III 刊 行 物

穂別町立博物館館報、第3号、11頁。

昭和62年3月31日発行

● 普及教育活動

I 博物館講座

【自然観察会】

『親子植物採集会』

自然に親しみながら学習する場として設定した。今後は標本作り教室や研究サークルなどに発展させていきたい。

- ・開講日：昭和61年7月20日
- ・場 所：博物館裏山
- ・参加人数：5名

『砂金堀り』

穂別町では大正時代から砂金堀りが行われており、現在でもその技術を修得している人が在住している。穂別町字富内在住の長岡俊一氏はその一人で、現在でも趣味的にはあるが、砂金堀りを行っている。

この技術をビデオに録画し、また一般の人にもその様子を知って貰うために、砂金堀りの実演を行った。

- ・開講日：昭和61年8月10日
- ・場 所：福山オロロップ沢
- ・参加人数：17名

【化石クリーニング教室】

5月から10月までの第1・3日曜日に開講。要望があれば随時開講している。恒例化したため参加人数は記録していない。

II ホッピーだより（博物館広報）

<主な内容>

- | | | |
|-----|---------------------------------|--------|
| 27号 | 大きな化石小さな化石 | 61年4月 |
| 28号 | ホッピークイズ その1.
ホッピーはオス？メス？ | 61年5月 |
| 29号 | ホッピークイズ その2.
ホッピーは大人？子ども？ | 61年6月 |
| 30号 | ホッピークイズ その3.
赤ちゃんはタマゴでうまれるか？ | 61年7月 |
| 31号 | 夏休み宿題アイデア特集 | 61年8月 |
| 32号 | 博物館ってどんなところ？ | 61年9月 |
| 33号 | 学名散歩 | 61年10月 |
| 34号 | 学名散歩 その2 | 61年11月 |
| 35号 | !!三原山噴火!! | 61年12月 |

- | | | |
|-----|--------------------|-------|
| 36号 | ウサギの話 | 62年1月 |
| 37号 | 御礼＝寄贈された脊椎動物化石＝ | 62年2月 |
| 38号 | 御礼＝1986年度に収蔵された資料＝ | 62年3月 |

III その他

〔静修短期大学・博物館活動研究研修会〕

昭和61年7月21日～22日：静修短期大学北川芳男教授担当ゼミナールの「地域の自然と博物館」現地研究：研修で常設展見学および化石採集。

〔地学団体研究会第40回総会・地質巡検〕

昭和61年8月3日～4日：学術シンポジウム地質巡検で穂別町内地質巡検および常設展見学。学芸員案内。

〔穂別高等学校・地理巡検〕

昭和61年9月30日：常設展見学および岩知志ダム地質巡検。学芸員案内。

〔穂別高等学校・文化講演会〕

昭和61年10月30日：「化石および化石調査に関して」学芸員講演。

● 運 営

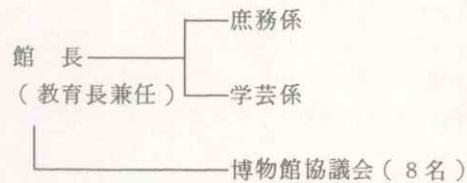
I おもなできごと

〔昭和61年度〕

- 4月3日 木村方一氏（北海道教育大学助教授）
来館
- 5月13日 NHK取材
- 5月26日 北海道大学理学部地質学鉱物学教室地
質巡検（23名）
- 6月1日 三笠市立博物館協力会28名来館
- 6月18日 由仁町文化財保護委員3名来館
- 6月23・24日 収蔵庫くん蒸
- 6月28日 青木隆夫氏（夕張市石炭博物館学芸員）
来館
- 7月12日 北川芳男氏（静修短期大学教授）来館
- 7月15日 加瀬大喜氏（国立科学博物館）来館
- 7月20日 博物館講座「親子植物採集会開講」
- 7月21・22日 静修短期大学北川ゼミナール10名
来館
- 7月22日 佐呂間町議会議員8名視察
- 7月25日 早来町議会議員21名視察
- 8月3日 地学団体研究会古生物巡検グループ12
名来館
- 8月4日 地学団体研究会ポスト巡検グループ25
名来館
- 8月8日 忠類村教育委員会6名視察
- 8月10日 博物館講座「砂金掘り」開講
- 8月12日 恵庭市校長会12名視察
- 8月15日 鈴木茂（前穂別町立博物館学芸員）来
館
- 8月19日 留辺蕊町議会議員7名視察
- 9月2日 下川町議会議員9名視察
- 9月7日 小島郁生氏（国立科学博物館地学部長）、
村本喜久雄氏（三笠市立博物館学芸員）
来館
- 9月9日 秩父別町議会議員18名視察
- 9月18、19日 平山廉氏（京都大学大学院）来館
- 9月25日 新得町教育委員会・郷土研究会9名視
察、鶴川町教育委員5名視察
- 9月28日 地団研札幌支部巡検22名来館
- 9月30日 穂別高校地理巡検（学芸員指導）
- 10月8日 胆振東部高校校長会9名視察
- 10月21～11月9日 特別展「穂別の自然」開催

- 10月31日 沼田町教育委員会11名視察
- 11月14日 収蔵庫改造工事
- 11月27～12月10日 文学資料展開催（町史編纂室
主催）
- 12月29～1月6日 年末年始休館
- 1月1日 桜庭館長転任（今教育長兼任となる）
- 3月4日 博物館協議会開催
- 3月5日 厚真町婦人団体協議会23名視察
- 3月31日 都田学芸補助員退職

II 組 織



職員名簿（昭和62年3月31日現在）

館長	今 幸太郎
学芸員	地 徳 力
学芸補助員	都 田 哲

博物館協議会委員（昭和62年3月31日現在）

会 長	久保田瑞真
副 会 長	荒木新太郎
委 員	森本 信雄
委 員	武田 武夫
委 員	田村 勝代
委 員	佐藤 嗣夫
委 員	中村 忠良
委 員	木戸 俊雄

Ⅲ 利用状況

昭和61年度入館者数

月	一 般	学 生	計	開館日
4	272	131	403	25
5	1,324	585	1,909	24
6	513	742	1,255	25
7	968	1,911	2,879	26
8	1,992	1,181	3,173	27
9	766	328	1,094	22
10	623	344	967	25
11	252	236	488	24
12	70	58	128	23
1	70	49	119	20
2	77	22	99	22
3	167	151	318	24
計	7,094	5,738	12,832	287

Ⅳ 博物館観覧者アンケートの結果と解析

博物館にとって観覧者層の動向等についての情報を集めておくことは非常に重要である。

穂別町立博物館に来館する観覧者の住所、職業、観覧の動機、感想などについてアンケート調査を行い、解析を行ったのでこれについて報告する。

アンケート実施時の展示は常設展のみで、穂別町立博物館としては年間入館者数がピーク時に当る。

アンケート実施期日

昭和61年6月10日～8月8日

総解答者数 292名

<質問A ご住所を教えてください。>

(この質問は穂別町立博物館の観覧者の地理的分布を知るためのものである。)

総解答数 292名中 町内在住 16名(5.5%)

町外在住 268名(91.8%)

無解答 8名(2.7%)

上記のように、ほとんどすべてが町外からの観

覧者であることがわかる。

町内在住の観覧者の内訳は16名中11名が高校生以下の学生である。残りは20代前半の男性が1人で、あとはすべて女性(20代前半が多く、70代が1人)である。

すなわち、穂別町内在住の成人男子はほとんど観覧に来ていないことがわかる。また成人女子も20代後半から60代までは、ほとんど観覧に来ていない。

しかし、これら町内在住者の傾向はほとんど予想されていたことであり、むしろ20代前半の女性が多く観覧に来ていることに意外性を感じる。

町内在住の人には、常設展を観覧するという利用法より、むしろ資料を収集したり、整理・保存の方法などを実際の行動を通して学ぶという利用を期待している。

〔町外―道内〕

札幌市	65人	江別市	3人
苫小牧市	55人	幕別町	3人
(穂別町	16人)	由仁町	3人
室蘭市	12人	恵庭市	3人
鶴川町	9人	石狩町	2人
新得町	8人	日高町	2人
登別市	8人	弟子屈町	2人
帯広市	7人	小樽市	2人
平取町	6人	新冠町	2人
門別町	6人	長沼町	2人
厚真町	5人	旭川市	2人
釧路市	5人	豊頃町	1人
早来町	5人	森町	1人
夕張市	4人	芦別市	1人
静内町	4人	根室市	1人
千歳市	3人	白老町	1人

これらのデータは、各市町村の人口、穂別からの距離、交通網などを考えれば、おおむね予想通りのものとなっている。

しかし、空知南部、上川南部、十勝西部および千歳市、恵庭市などが予想外に少なく、今後宣伝などで開拓していく必要があるかも知れない。

千歳市、恵庭市については、千歳空行からの直行バスの運行によって、妥当な数まで入館者数が伸びるものと予想される。

〔道 外〕

神奈川県	6人	宮城県	1人
大阪府	5人	熊本県	1人
東京都	4人	岡山県	1人
宮崎県	3人	高知県	1人
埼玉県	2人	大分県	1人
愛知県	2人	新潟県	1人

入館者地理分析も全国レベルとなると、母集団が小さく考察もかなり困難となる。

しかし、無理を承知で解析すればやはり人口の多い東京、大阪からの観覧者が多いことが解る。

また人数は少ないが、ほぼ全国的に観覧者が分布しており、特定の地域に集中していない。

特記すべきは神奈川県からの観覧者が一番多いことであるが理由は不明である。家族6人で観覧に来たということではないことは解っている。

また、このデータでは現れていないが、道外からの観覧者の中には、当館が全国でも数少ない自然史（地質、化石）を中心とした博物館であることから、当館を観覧するために来道した人もおり、自然史系であることを全面に押し出した方針は、これからもより進めていくべきだと思われる。

〈職問B 差し支えなければ氏名、年齢、性別をお書きください。〉

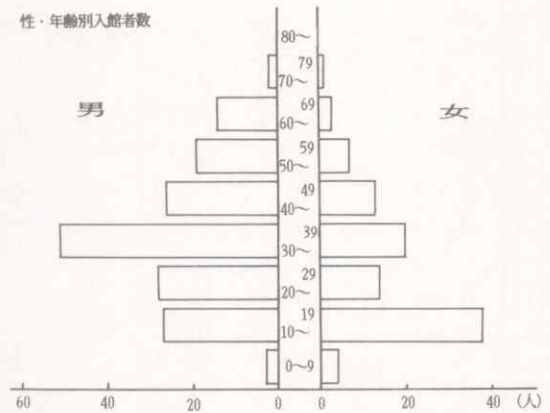
男女とも30代をピークに、10代を除けばきれいな紡錘型の分布をしており、特筆すべき点は多くは見あたらない。

30代の夫婦がリーダーシップをとって、10代の子供を連れ観覧に来ていると解釈できるであろう。

このグラフを見る限りでは、女性は男性に比して博物館への興味は薄いと結論できるかも知れないが、10代女性の観覧者の突出についての解釈が重要な点となるであろう。

女性の大部分は博物館などに多くの興味を持っているのだが、20代以上の多くの女性は、主婦と

性・年齢別入館者数



して家庭に閉じこもりがちなので、観覧することが少ないのかもしれない。

シーズンオフの土、日曜日に半額ないし無料で母子観覧の日を設けて、博物館へ来るきっかけを増やすなどの方法が必要であろう。

〈質問C お仕事は？〉

この質問は、どのような社会的立場の人が観覧に来ているかを知るためのものであったが、適切な質問の設定ができずあまり目的を達することができなかった。

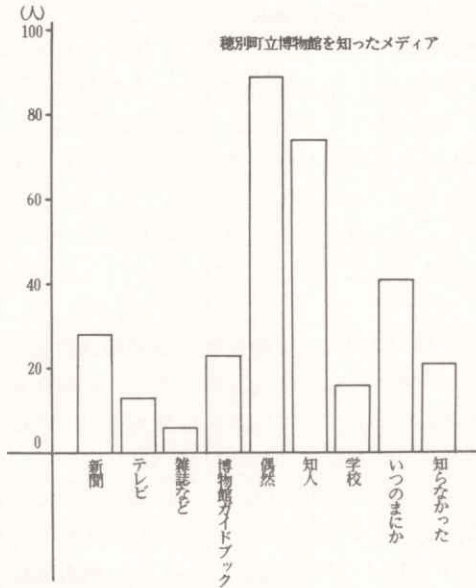
特にどの立場で多寡があるわけではないことを記し省略する。

〈質問D 穂別町立博物館を何でお知りになりましたか？〉

- a 新聞
- b テレビ
- c 雑誌など
- d 博物館ガイドブック
- e 穂別町へ別の用事で来て偶然
- f 知人に聞いて
- g 学校で教えられて
- h いつのまにか（以前から知っていた）
- i 知らないあるいは知らなかった

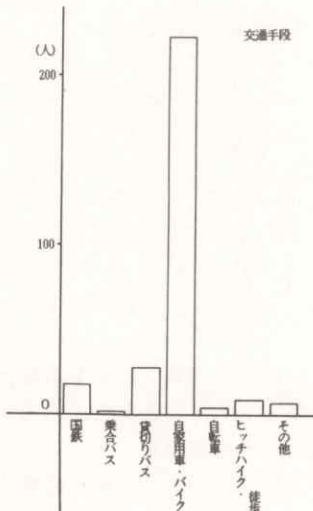
この質問は、当館を知ったメディアをたずねたものであるが、新聞、テレビ、雑誌、博物館ガイドブックなど、本来積極的な立場で知らせることを目的としたメディアによって知った人は全部合

わせても2割にすぎず、別の用事で穂別町へ来て偶然知った人が3割、知人に聞いた人が2割強もいる事と対照的であり、博物館、観光協会など町側の消極的な姿勢が反映している。

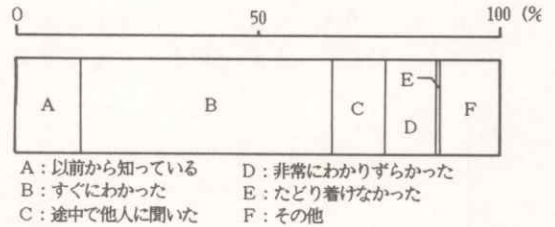


<質問E 今日の交通手段は？>

博物館までの交通手段は、世相を反映して自家用車、バイクが76.6%を占めている。これに対して国鉄利用者は6.2%にすぎず、富内線が廃止になっても入館者数に大きな影響は与えないであろう。国鉄に代わって千歳からの直行バスが運行された場合、どのような割合を占めるかが興味深いところである。



<質問F 博物館への道順はすぐわかりましたか？>

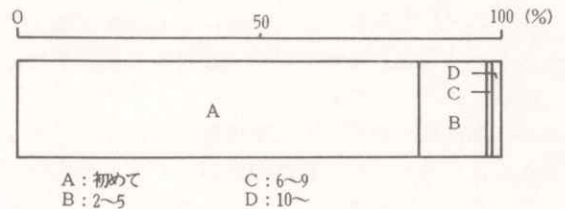


博物館への道順は、町内の街路が不規則であるため、わかりにくいと言う人が多いのではないかと予想された。

やはり、案内看板があるにもかかわらず、途中で人に聞いた、非常にわかりずらかった、たどり着けなかった(?)は合わせて22%であり、すぐにはわからないと言う人が多い。

町内に配置された案内看板はこれを見て博物館があることを知ったと言う人がいて、有効ではあるが完全とは言えないことを示している。なお、その他と答えた人は大部分が連れて来て貰ったと答えている。

<質問G 穂別町立博物館には何回ぐらい来館していますか？>



通常、博物館には1回見に来れば十分と言う人が多いものであるが、穂別町立博物館の観覧者の2割は複数回の観覧をしており、中でも10回以上来ていると言う人が6名もいたことは記すべきであろう。

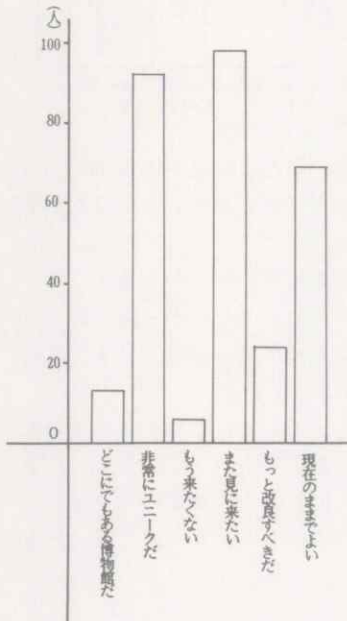
どこにそれだけの魅力があるのか、今後検討しその方面を延ばしていくことが必要である。

<質問H 他の博物館、美術館、水族館、動物園に良く行きますか？>

設問が失敗であった。省略。

<質問I 穂別町立博物館の印象は？(いくつでも)>

- a どこにでもある博物館だ b 非常にユニークだ c もう来たくない d また見に来たい e もっと改良すべきだ f 現在のままで良い



博物館の印象は「非常にユニークで、また見に来たい」という意見が圧倒的である。改良すべきか否かという問には、この差は少し詰まるようであるが「現在のままで良い」という意見が多数を占めている。

これは展示物がこのままで良いと言うことではなく、自然史系の当館の方針が「そのままが良い」ということであろうと、以下の自由意見から推察される。

<自由意見>(一部)

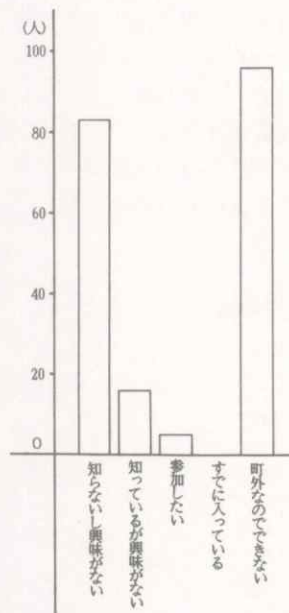
- 道順、標識が無くわかりづらい(35男)、駅から遠い(21男)、自家用車で来た人にもっとわかり易い標識が必要(60男)
- もっと広く宣伝をすべき(21男)、宣伝をもう少ししたら(37男)
- もっと(展示)スペースが欲しい(50男)、展示物が少ない(29男)
- 本館の立場を明確に/そのために化石中心のものとしては(34男)、日高の地層、化石などは

わかりやすくユニーク、でも博物館としてはもう少し動植物系の標本をそろえた方がわかりやすすくないか(41女)、アンモナイトやイノセラムスをもっと学術的体系にしたがった解説や展示を工夫したら(59女)

- 建物の作りが好き/(16女)、とても良くてももしろかった(10女)、たいへん中身のある感じ、良いです(48男)、子供達(幼稚園、小4)がとても喜びました。きれいで説明も見やすい(35女)
- ゆっくりと来たい(13男)、次に来るときも楽しみにできると思う(31男)

<質問J 穂別町立博物館には博物館協会という団体があり、化石部会、人文部会、動植物部会、ビデオ部会に分かれて独自の活動を行っています。これについて御答えてください。>

- a 知らないし興味がない b 知っているが興味がない c 参加したいので方法を教えて欲しい d すでに入っている e 町外在住なので参加したいができない



協会についての質問であるが、観覧者地理分布のところで解ったように、ほとんどの人達が町外の在住なので質問が適切でなかった。

それにしても解答者200名中5名が町外在住で

あるのにもかかわらず、参加したいと回答しており、潜在的な穂別町立博物館ファンは多くいるのではないかと推測される。

〈質問K その他なんでも御意見を御聞かせください(一部)〉

- たいへん立派な博物館です。ますます充実されることを願います(60男)
- 地方なのに展示物の充実した博物館だと思いました(38女)
- また来たいと思ってるし、化石などに興味があるので、いろいろなものをまた探すのを楽しみにしています/(10女)
- 1つの町として貴重な資料を気軽に勉強できる施設を作ってくださったことを感謝します(47男)
- 頑張って活動してください/(14女)
- 知床・釧路の博物館も見て参りましたが、化石の多いユニークな特色を持った所と感じました(41女)
- 珍しいものが見られて、子供、孫達と楽しみました(57女)
- 首長竜の首の長さに感動っ/楽しかったですヨ(17女)
- 穂別に根ざした番組作りは良い。××にもこんな見る人を楽しませる博物館があったらと思った(30男)

以上、総じて好意的、肯定的な意見が多く、アンケート実施者としても一応安堵している。

これらアンケートの結果を踏まえ、早急に改善できる所は行い、また長期的な展望にたって、計画をたてていきたい。今後もこのようなアンケート調査を行う予定でいるが、よりよい博物館を創るための資料となれば幸いである。

V 昭和61年度予算

費 目	予 算 (単位千円)
報 酬	2,147
共済費	242
賃 金	1,105
保償費	805
旅 費	185
需用費	5,460
	(消耗品費 428)
	(燃 料 費 1,450)
	(食 糧 費 81)
	(印刷製本費 742)
	(光熱水費 2,299)
	(修繕費 460)
役務費	490
	(通信運搬費 310)
	(手 数 料 117)
	(保 険 料 63)
委託料	1,415
使用料及び貸借料	337
工事請負費	330
原材料費	72
備品購入費	316
負担金補助及び交付金	205
博物館費 合計	13,109

Ⅵ 利 用 案 内

開館時間 午前9時30分～午後4時30分
休館日 月曜日・祝日の翌日・毎月月末・
年末年始（12月30日～1月6日）

観 覧 料

	一 般	小中学校・高校生
個 人	200 円	50 円
団体(10人以上)	150 円	30 円

減免

- 1) 穂別町立小学校及び中学校が教育計画のため入館する場合
- 2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合
- 3) 老人福祉法（昭和38年法律第133号）第14条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画のため入館する場合
- 4) 精神薄弱者福祉法（昭和35年法律第144号）第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合
- 5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合

穂別町立博物館館報第4号

(昭和61年度)

発行 1987年7月31日

発行者 穂別町立博物館

〒054-02

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

電話(01454)5-3141

印刷所 苫小牧市柏木町1丁目16-9

さんようプリント

